

八王子市教育委員会 殿

学校名 八王子市立宇津木台小学校
校長名 宇 野 賢 悟 公印

令和7年度教育課程について(届)

このことについて、八王子市立学校の管理運営に関する規則に基づき、下記のとおり
お届けします。

記

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

児童が国際社会を逞しく生きる力を身に付け、生涯学ぶ意欲と向上心をもち続けることをめざし、
次の児童像を掲げ、その育成に努める。

ア よく考え、すすんで学ぶ子（自分の思いや考えを表現し、粘り強く取り組む児童）

イ ◎協力し、思いやりのある子（他者の気持ちを考えた思いやりの行動ができる児童）

ウ 体をきたえ、ねばり強い子（自ら進んで心身を鍛え健康の保持増進に努める児童）

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

地域運営学校のもと、学習指導要領の理念を踏まえ、全ての児童の幸福を願い、「知」・「徳」・
「体」の調和のとれた豊かな人間性を育む。また、将来どのような環境に置かれても、他者と協働し
ながらたくましく目の前の課題に立ち向かい、より良い生き方を選択できる「生きる力」の育成をめ
ざす。さらに、カリキュラム・マネジメントを通して教育活動の充実を図るとともに、教職員の働き
方改革を推進し、児童と向き合う時間の創出に努める。

ア 他者の気持ちを考えた思いやりの行動が取れる児童を育成するために、いじめや偏見のない自他
共に尊重できる教育活動を推進する。 【豊かな心の育成】

イ 自分の思いや考えを表現し、粘り強く取り組む児童を育成するために、基礎的・基本的な知識及
び技能の定着を図り、思考力・判断力・表現力等を育む授業改善を推進する。【確かな学力の育成】

ウ 自ら進んで心身を鍛え、健康の保持増進に努める児童を育成するために、家庭と連携した生活習
慣の確立を図り、運動の楽しさを味わう活動や遊びの経験を充実させる。 【健やかな体の育
成】

エ スクールカウンセラーや関係諸機関と連携し、不登校児童対応のための環境整備や個に応じた支
援を充実させ、特に別室での対応を組織的に行い、学校との信頼関係を維持する。

【不登校児童への適切な対応】

オ ふれあい月間アンケート気になる児童の調査を実施し、早期発見、初期対応に丁寧な努め組織的
に取り組む。 【いじめ総合対策を踏まえ、いじめの防止等の取組を効果的に実行するための方針】

カ 特別支援学級設置校として、通常学級に存在する配慮が必要な児童に対しての授業の中での支援
に取り組むなど特別支援教育を推進する。 【特別支援教育の充実】

キ 【石川中学校グループ（石川中・小宮小・宇津木台小）】共通目標「一生懸命に学び続ける」「自ら
考え、自信をもって行動できる」「人、物、時間を大切にできる」を3校が協働しながら、義務
教育9年間で切れ目なくつなぐ教育活動を展開する。 【小中一貫教育のさらなる充実】

2 指導の重点

(1) 各教科等

ア 各教科（外国語活動を含む）

- ①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、基礎的・基本的な知識及び技能の定着や思考力、判断力、表現力等の育成が図られるよう1人1台の学習用端末を授業で活用する。特に令和4・5年度八王子市教育委員会「AL+GIGA推進校」として取り組んだ研究成果を活かし、「考える力」の育成を軸とした授業改善を図る。
- ②「習熟度別算数委員会」において、各種調査等の結果分析を行い、日常の学習指導における学力の実態等を踏まえ、一単位時間や単元全体の指導の中で、PDCAサイクルを意識したきめ細かな指導を実践し、市学力定着度調査における基礎・基本を図る問題の確実な定着を図る。
- ③「東京都児童生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」の結果をもとに、分析して出た課題に即した運動領域を、体育科指導の中で意図的・計画的に位置付けていくとともに、体力向上月間の取組、校内マラソン、なわとび等、日常的な運動習慣の確立を通して児童の体力向上を図る。
- ④国語科及び外国語活動において、会話や発音、聞き取りを中心とした外国語の体験的な活動を行い、コミュニケーションを図る素地を育成する。
- ⑤より質の高い教科指導や中学校教育への円滑な接続、多面的・多角的な児童理解の促進に向け、高学年における教科担任制を実施し、学年全体で児童一人ひとりの指導にあたる。

イ 総合的な学習の時間

- ①身近な郷土学習として日本遺産である高尾山や車人形、地産地消などを取り上げ、地域の人材や学習素材を活用しながら学習に取り組むことで、地域への愛着を深められるようにする。
- ②児童がよりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく教科等の横断的・総合的な学習の探究的な学習などの取組を設定する。

ウ 特別活動

- ①個性の伸長を図り、集団の一員としての自覚と責任を培うために、児童が集団の中で自己を表現できるよう学級活動、児童会活動、委員会活動及びクラブ活動で児童が主体的に、実践的に取り組みを充実させる。また、運動会、遠足、集団宿泊行事等で児童自らが主体的に活動する場面を設定する。
- ②「たてわり班活動」を通し、異学年交流などさまざまな人間関係を学ばせるとともに、自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育成する。
- ③児童会活動の「石拾い」「落ち葉集め」など奉仕的活動の充実を図り、すすんで社会に貢献しようとする態度を育成する。

(2) 特別の教科 道徳を要とする道徳教育

- ①道徳教育推進教師を中心に道徳教育全体計画や別葉を基に教育活動全体を通した道徳教育を行い、他者を思いやり、誰とでも協力しようとする道徳性を養う。
- ②道徳教育全体において「親切、思いやり」を重点内容項目とし、児童の実態に応じた「考え、議論する道徳」の授業を要として、学校教育活動全体を通した道徳教育の推進を図る。また、道徳授業地区公開講座を通じ、家庭・地域社会と連携して児童の道徳価値の自覚を深められるよう道徳性を養う。

(3) キャリア教育

- ①小中一貫教育グループとの連携を深めるために、「はちおうじっ子キャリア・パスポート」を活用し、学習や生活の振り返りを行い、将来の生き方を考えるなどキャリア教育の充実を図る。

(4) 特別支援教育

- ① 特別支援学級「すぎの子学級」及び特別支援教室「こみっきい」との連携を図り、特別な支援を必要とする児童について連携型個別指導計画、学校生活支援シートを作成し、個別の教育的ニーズに応じた支援を組織的かつ計画的に行う。
- ② 特別支援教育コーディネーター、特別支援教室専門員を中心とした特別支援教育校内委員会やケース会議をし、情報を密に取りながら、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、学校サポーター、関係諸機関等と連携した個別支援の充実を図る。
- ③ 都立特別支援学校在籍児童の学校行事への参加などの副籍交流（直接交流、間接交流）を通し、同じ地域で生活しているという意識を児童及び教職員で共に高めていく。

(5) 生活指導

ア 生活指導

- ① 学校安全ボランティア等との連携を深め、セーフティ教室を通して、犯罪による危険から身を守るための注意点や対応の仕方を学ぶ。
- ② 生活目標の振り返りを行い、自分の生活を見つめ直し行動に移せるように指導する。また、保護者会、学校だより等で情報モラル等について発信し、家庭や地域の理解に努める。
- ③ 児童が性犯罪・性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないために、『「生命（いのち）の安全教育」の指導の手引き』の内容を踏まえた指導を、全学年で行う。

イ いじめ防止等の取組

- ① 「八王子市いのちの大切さを共に考える日」に命の大切さを考えられるように校長講話及び道徳科の授業を行う。
- ② 週1回の学校いじめ対策委員会を核とした組織的ないじめ防止に向けた時間を確保し、その中で特にふれあい月間アンケートにおいて気になる児童の調査に重点を置き、全教職員が丸となり、いじめや不登校等の課題について早期発見・対応に努める。
- ③ 相談できる大人の調査を活かし、特に一人ひとりの児童理解に努め、教員と児童との信頼関係及び児童間同士のよりよい関係を築き、いじめ防止に関する授業やSOSの出し方に関する授業を行う。

ウ 不登校児童への支援等

- ① 個票システムを活用し、不登校児童とつながるために保護者と連携しながら学級担任等が定期的な電話連絡や家庭訪問を行う。また、不登校児童に対しては、保健室登校など校内環境整備に努め、オンラインを活用した面談や学習サポート等により社会的自立を支援する。

(6) 特色ある教育活動

ア 義務教育9年間を見通した小中一貫教育の取組【石川中学校グループ（石川中、小宮小、宇津木台小）】

- （取組1）2学期3校合同避難（保護者引き渡し）訓練、3校合同による「意見発表会」、3学期2月新入生児童説明会（中学校授業・特別活動紹介）を実施。
- （取組2）石川中学校グループ学力定着度プロジェクトチームを設置し、全国や東京都、八王子市の学力調査、はちおうじっ子ミニマムの結果分析、対策支援の検討をする。
- （取組3）生活指導スタンダードの共通化を図った上で、児童・生徒一人ひとりの個別の課題に対して、情報を共有し、指導法の工夫や授業改善を推進する。
- （取組4）1・2学期に合同地域クリーン活動、2学期3校合同による「意見発表会」を実施することで、自ら考え、自信をもって行動できる児童・生徒を育てる。

イ 学力向上の取組

- ① 基礎的・基本的な学力の定着を図るために、学校運営協議会・地域学校協働本部と協働して放課後算数教室を第3学年から第6学年を対象に月3回程度実施する。
- ② 1人1台の学習用端末を活用した自主学習や予習・復習に取り組み、家庭学習をより充実させる。

ウ その他

- ① 「宇津木台小学校 2020 レガシー」として、障害者理解、国際理解教育を推進し、他国の言葉や文化に触れる機会を設けるとともに、地域人材を活用した我が国の伝統文化芸術を理解する教育を進める。
- ② 学校だより等のホームページへの掲載、Home&School による連絡などを通して、家庭・地域・関係諸機関との連絡を密にし、連携・協力・交流を深める。
- ③ スタートカリキュラムを活用し、「保・幼・小連携の日」に一同に集まり、園児・児童の諸情報を共有し、共通理解を深める。
- ④ 石川中学校グループとして「情報活用能力系統表」を活用した義務教育9年間を見通したICT活用に関する資質・能力の育成について、特にタイピングスキルに重点を置き、ICTを活用することで向上をめざす。
- ⑤ 青少年対策石川地区委員会との共催の合同地域クリーン活動の参加を呼び掛け、参加者を全校朝会で紹介し、通知表に記入する。